

## 本特集テーマ の next

一般財団法人地域・教育魅力化  
プラットフォーム 代表理事

岩本 悠 いわもと・ゆう



学生時代にアジア・アフリカ・オセアニアを  
流学し、帰国後、20か国・地域を訪問した体  
験記、『流学日記』（文芸社）を出版。卒業後、  
企業で人材育成や社会貢献事業に携わる一方、  
学校の開業教育・キャリア教育にも取り組む。  
2006年から島根県立隠岐島前高校の魅力  
化事業に、15年から島根県教育魅力化特命官  
として高校魅力化に従事。

# 魅力化の評価を基にした ステークホルダーの対話が、 より実質的で 持続可能な取り組みを築く

スクール・ポリシーの策定を始めたとして、特色化・魅力化に向けた方策を  
持続可能な取り組みとするためには、どのような視点を持つことが重要な  
のか。特色化・魅力化の先に見える教育の未来とは――。島根県の離島に  
ある島根県立隠岐島前高校を中心とした学校と地域の魅力化に取り組み、  
現在は全国各地の高校の魅力化を支援する岩本悠氏に話を聞いた。

理想の学校を追究し続ける  
終わりなき取り組み

2006年度に始めた島根県立  
隠岐島前高校の魅力化事業では、  
地域を挙げて人づくりやまちづく  
りを推進しました。現在は、島根県  
教育魅力化特命官として、魅力あ  
る高校づくりの実践を県内全域に

広げることには力を入れています。

学校の特色化・魅力化は、突き  
詰めると、自校が理想とする学校  
像や生徒像を地域とともに考え抜  
き、その実現に向けてPDCAサ  
イクルを回し続ける、終わりなき  
取り組みだと考えます。「どんな生  
徒の育成が求められているのか」  
「その実現のために、どういった教

育活動が必要なのか」といったこ  
とを考え、様々な取り組みを積み  
重ねていくうちに、その学校らし  
い特色や魅力が芽生える。それが  
結果的に、他校との差異になって  
いくのではないだろうか。

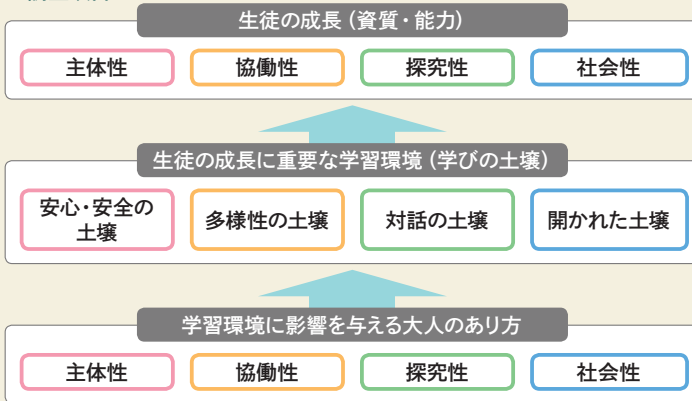
隠岐島前高校の魅力化事業で  
は、1年目は学校や自治体、地域  
の関係者との関係づくりに徹し、  
2年目に1年間をかけて教師や生  
徒、保護者と対話を重ね、今と言  
うスクール・ポリシーに近い、グ  
ランドデザインをつくり上げまし  
た。そして、それを基に教育課程  
を編成し、島外から入学者を募る  
「島留学」や、放課後の学習の場  
となる公営塾など、様々な施策に  
つなげていきました。

エビデンスに基づく対話が  
次のアクションにつながる

PDCAサイクルを回し続ける  
ためには、取り組みによって生徒  
が成長したかどうかを検証する評  
価が必要です。そこで、外部機関  
との連携により、魅力化事業の成  
果を評価する「高校魅力化評価シ

### 図1 「高校魅力化評価システム」の概要

- 調査方法 生徒及び取り組みにかかわる大人を対象にアンケート調査を実施
- 調査項目



#### ● 評価システムの活用場面

- 職員会議 高校の魅力化に関する現状・目標・ビジョンを共有するために。
- 学年会議 学校目標、学年目標、クラス目標などを検討するために。
- 地域との協働の場 魅力化にかかわる自らのあり方を振り返るきっかけに。
- 教育委員会 施策のPDCAサイクルの推進や成果の可視化、学校現場の支援のために。

※岩本氏提供資料を基に編集部で作成。

「高校魅力化評価システム」の詳細については、「高校魅力化プラットフォーム」のウェブサイト参照。<https://cn-miryokuka.jp/project/project04/>

システム」を開発しました。

生徒の意識や行動は、教育活動だけでなく、教師を始めとする大人の考え方や行動様式、学習環境など、いわゆるヒドゥン・カリキュラム（隠れたカリキュラム）からも大きな影響を受けます。そこで、本評価システムでは、生徒の成長に加えて、生徒の成長にかかわる学習環境や大人のあり方も評価対

象にしました（図1）。

そして、評価の結果を次の活動に生かすため、生徒や教師、地域住民とエビデンスを基に對話することを大切にしました。例えば、「生徒の主体的に学習に取り組む態度は育ちつつあるが、社会参画の意識がまだ弱い」という声を「社会に開かれた教育環境づくりに力を入れよう」といった声が對話の中で多

く上がったことを受けて、グラウンドデザインを見直し、具体的な改善策を検討した学校もあります。

そうした對話は、教師を始めとする関係者間の温度差の解消にもつながります。特色化・魅力化の取り組みは、一部の熱心な教師が主導する形がちです。しかし、教師であれ地域住民であれ、特色・魅力ある教育活動がもたらす目の前の生徒の変容を可視化して對話を重ねることで、スクール・ポリシーに掲げられた生徒像や教育方針と生徒の実態がしっかり結びつければ、生徒の成長にかかわる1人として当事者意識が醸成されていきます。そのようにしてステークホルダー同士の連携を深めていくことは、取り組みの持続可能性を高めるためにも欠かせません。

また、取り組みの継続には一定の予算も必要で、その獲得のためにもエビデンスは重要です。教育委員会や学校の予算の範囲内だけで進めようとするとう限界がありまますから、例えば、地方創生にかかわる交付金など、国や首長部局の財源も視野に入れるべきでしょう。

### 取り組みの推進に不可欠な教師の3つの力

特色化・魅力化の推進には、教師が次の3つの力を持つことも重要だと考えています。1つめは、学びの場やプロセスを整えて主体的・対話的で深い学びを引き出す「ファシリテート」、2つめは、教室外の多様な教育資源を生徒の学びにつなぐ「コーディネート」、3つめは、限られたリソースを生かして学びの価値を生み出す「マネジメント」です。

それらの力は、知識を習得すれば発揮できるものではなく、非認知的な能力が求められます。そのため、私たちが企画する教員研修は、参加者自身が課題を見つけて目標を設定し、講師に伴走支援を受けながら探究するPBL（\*）型にしています。教師自身が講師からファシリテートなどを受けながら、気づきを得たり、失敗したりする中で、生徒の学びをどう支援すればよいのかを体験的に学ぶことができます。

また、研修の参加者を教師に限

\* Problem Based Learning、あるいは Project Based Learning の略。

定する閉じた環境では、新たな発想は生まれにくい。そのため、研修を外部に開いて校外の人を招くことも大切にしてきました。

そして、それら3つの力を1人の教師がすべて高いレベルで備えることは容易ではありません。多様な教師がそれぞれの個性や強みを生かし、連携することも、今後一層求められると思います。

### 多彩な選択肢を用意して 個別最適な学びの実現へ

これからの時代に生徒に求められる資質・能力の育成を考えると、複数の学校や地域をまたぐ取り組みも重要になると考えます。現在は、各校が個別に特色化・魅力化を推進していますが、学校単位のスクール・ポリシーは、計画的、連続的、効率的な教育課程に基づいており、それらは言わば、学校最適な発想です。そうしたポリシーは、生徒一人ひとりにとって最適であるとは限りません。

コロナ禍に象徴されるように、この先、生徒は非連続な社会を生

きていかなければなりません。そのために必要な資質・能力を効果的に育成する可能性を秘める教育の1つが、異なる環境や文化の中で学ぶ「越境」だと考えます。

私が代表理事を務める「地域・教育魅力化プラットフォーム」では、他地域の高校に1年間国内留学できる「地域みらい留学（高2留学）」という仕組みを構築しました。越境して非連続な学びに身を投じ、自らの力で学びをつくり出す中で、予測が困難な社会に対応できる資質・能力が育まれていきます。

今後、各校の特色化・魅力化が進めば、生徒一人ひとりの資質・能力や志向に応じた多彩な学びの選択が可能となるため、越境する学びが大きな意味を持ちます。各校の特色化・魅力化の先には、生徒が自らのカリキュラムをマネジメントし、個別最適な学びを形づくる教育が見えてくるはず。そうした教育が実現した時に、学校や教師には生徒の個別最適な学びを支える伴走的な役割も求められるでしょう。

イベントのご案内

## VIEWnext PRESENTS

2021年  
8月2日(月)  
オンラインで  
開催!

本誌特集テーマとも連動!

自校の研修・会議に使える!

# 対話促進スキル向上・オンライン講座

主な講師・ファシリテーター



一般財団法人地域・教育  
魅力化プラットフォーム  
代表理事

岩本 悠

© 2006年から島根県立隠岐島前高校の魅力化事業に、15年から島根県教育魅力化特命官として高校魅力化に従事。

答えが1つではない問いに向き合うことが求められる現代。学校における研修や会議においても、参加者が互いの考えや思いを共有する「対話」の重要性が高まっています。今号から、対話型の研修や会議を実現するために必要な対話促進スキルの向上を目的としたオンライン講座を、特集のテーマと連動させる形で開催します。今回の講師は、全国各地の学校の魅力化を支援する中で、これまで対話型のワークショップやフォーラムを開催されてきた、岩本悠氏です。岩本氏と編集部が、今号の特集について解説した上で、岩本氏に、対話に有効なツールや心構えなどをお話しいたします。

開催日時 2021年8月2日(月) 16時00分～17時10分

形式 オンライン(ライブ配信) ※お申し込みいただいた方に、詳しい参加方法をご案内します。

参加申し込み方法 右の2次元コード、または下記 URL から登録してください。

<https://enquete.benesse.ne.jp/forms/o/we7fd569f5/form.php>

参加申し込み締め切り 2021年7月28日(水) 参加費 無料

